

愛鷹山に眠る開拓者たち

東海最大級の古墳群と地域の再生

[沼津会場]

沼津市立図書館 4階 展示ホール

令和4年3月10日(木)～3月24日(木)

展示解説シート

開催にあたって

沼津や富士にお住まいの方は、毎日のように愛鷹山を目にしていることでしょうか。この山には約37,000～38,000年前から人が暮らし始め、これ以降人々は愛鷹山と様々なつながりを持ちながら生活をしてきました。

その長い歴史の中で数多くの古墳が愛鷹山に造られる時期があります。古墳は当時の有力者の墓と考えられるもので、古くは約1,800～1,700年前に、比較的に見晴らしのよい尾根上に築かれました。約1,600年前になると古墳の築造はほとんど見られなくなり、いったん途絶えますが、約1,500～1,400年前の古墳時代後期後半(6～7世紀)になると、再び古墳が造られるようになり、群集墳と呼ばれる様相が見られるようになります。

長年にわたる発掘調査で、8世紀になると両市の市街地において大規模な集落が営まれるようになることが明らかとなっていますが、その前段階である古墳時代後期に古墳を造った人々こそが、この地を開拓し、その基礎を作ったのではないかと考えられます。今回の展示は、この群集墳の様相を明らかにするとともに、より一層の理解が深められるよう沼津市と富士市の共催で開催するもので、愛鷹山の古墳群を考える上で必要不可欠な出土遺物をそろえました。古墳に副葬された遺物とおして、被葬者の素顔に迫っていく構成となっておりますので、是非ご覧いただき当時の愛鷹山の「開拓者」に思いを巡らせていただければ幸いです。

沼津市教育委員会・富士市

プロローグ 愛鷹山とそこに暮らした人々

あしたかやま
愛鷹山は約10万年前に活動を終了した火山で、その南東の山麓には比較的緩やかな尾根が広がっています。現在でもこの尾根上には集落が形成され、そして過去の遺跡も多くはこの尾根上、特に標高200mより下で発見されます。

山裾には古墳時代には存在していたであろう通称「ねがたかいどう根方街道」が通っており、うま根方街道より南には浮島沼、千本松原・田子の浦砂丘、そして駿河湾が広がっています。

約38,000年前の旧石器時代の井出丸山遺跡などをはじめ、縄文時代や弥生時代の遺跡も発見されています。古くから人々は愛鷹山と共に暮らしていたことがわかります。

愛鷹山に築かれた古墳

たかおさんこふん
高尾山古墳は愛鷹山麓に最初に築かれた古墳です。平成20・21年に発掘調査が行われ、古墳時代初期において東日本最古級かつ最大級の前方後方墳であることが確認されました。出土遺物には鏡やヤリ、鉄ぞく鏃、まがたま勾玉、多量の土器などがあり、東日本の古墳時代のはじまりを考えるうえで重要な古墳といえます。



富士山の噴火と災害の痕跡

おおぶち
大淵スコリアとは、富士山南麓の側火山の噴火によって広範囲に降り積もった火山噴出物の一種です。古墳時代を中心に3回以上噴出したことがわかっており、特に5世紀末頃の噴火によって埋没した集落が、愛鷹山南西麓から田子の浦砂丘上において広く見つかっています。発掘調査によって、大粒のスコリアが30cm以上の厚さで降り積もった当時の被害状況が明らかになりました。



災害からの復興と前方後円墳

大淵スコリア噴火後の5世紀末頃には、富士山の噴火活動も収まりつつあったようであり、各地で新興の中小首長による古墳築造が再開します。

5世紀後半から6世紀前半には、低湿地を中心に新たな集落が誕生するほか、さいし祭祀やカマド、すえ須恵器、きはにわ埴輪といった新来文物の受容が加速しており、その背景には、わおうけん倭王権や関東の大首長などからの支援があったと考えられています。地域側のもつ復興への要望に対し、王権側も災害を好機と捉えて、適材適地に新たな開発指導者を派遣あるいは擁立することで、影響力を高めていったとみられます。



愛鷹山の群集墳と開拓者たちの素顔

西は赤淵川、東は桃沢川に挟まれた愛鷹山南麓には、少なくとも1,000基以上の古墳が築かれたとみられますが、南西部の須津（中里・神谷）・船津・石川の三大古墳群に600基以上が集中しています。

群集墳の時代には、この地域全体を統一するような突出した首長墳が見当たらないことから、尾根筋や谷といった墓域を共有する古墳群単位で、それぞれの集団を率いたリーダーが存在したと考えられます。



開拓者たちの素顔1 ～指導者として身を飾る～

古墳の被葬者は武器を持って権威を示したほか、様々な装飾品で自身や馬などを飾ることをしました。

金色に輝く耳環や鈴、腕に付けたであろう銅釧、様々な素材で作られた色とりどりの玉類、さらには鏡などが古墳には納められました。

豊富な玉類 数多く出土する装飾品の中でも玉類は、形や素材が様々です。形としては丸玉、細長い管玉、切子玉、勾玉などがあり、その素材は、ガラス製、メノウ、水晶などの石製が一般的ですが、珍しいものでは天然樹脂の琥珀製や貝製もあります。



〔富士市〕船津 L-207 号墳出土玉類



開拓者たちの素顔2 ～武人として～

古墳の副葬品でとりわけ目を引くのが武器類です。金銅や銀などで美しく装飾が施された大刀をはじめ、鉄鏃、弓金具などが出土しています。また防具である籠手が納められた例もあります。こうした武器は被葬者の武人的な性格を反映していると考えられます。



〔沼津市〕芝荒 2 号墳出土
単鳳環頭大刀柄頭



〔沼津市〕ニツ塚古墳出土
単鳳環頭大刀柄頭



〔富士市〕船津 L-62 号墳出土
鉄鏃・弓金具

鉄鏃・弓金具 多くは木質部分が失われていますが、矢に取り付ける鉄鏃、弓の飾りである弓金具なども被葬者を考えるうえで重要です。特に鉄鏃は様々な形があり、方頭式のように実用的でないものも認められます。

権威を示す大刀 飾り気のないものもありますが、秋葉林 1 号墳出土の圭頭大刀は金銅装で細かな細工が認められ、芝荒 3 号墳出土の大刀の持ち手には銀がまかれていることが確認できます。さらに大刀の飾りとして芝荒 2 号墳や井出ニツ塚古墳の玉をくわえた鳳凰をあしらった柄頭や鮮やかな銀色を伴っていた花川戸 4 号墳出土の柄頭などもあります。こうした飾りを見ると武器は全てが実用的なものではなかったようで、自身の権威を示すものとして作られたものもあったのでしょう。



〔沼津市〕芝荒 3 号墳出土 装飾付大刀



開拓者たちの素顔3 ～牧の管理者として～

愛鷹山の古墳群からは馬具も豊富に出土します。馬は5世紀ごろに朝鮮半島からもたらされ、軍用以外にも陸の交通を担う動物でした。多量の馬具は古墳の被葬者が馬を飼っていたことを示す重要な遺物です。

(左)〔沼津市〕^{あらくしろやま}荒久城山古墳出土 杏葉 ^{ぎょうよう} →
(右)〔富士市〕船津L-62号墳出土 馬具



開拓者たちの素顔4 ～土木・手工業生産者として～

土木・手工業生産に関連する道具も愛鷹山の古墳群に副葬されることから、古墳の被葬者は土木開発のリーダー、もしくは職人を束ねる人物という側面もあったと考えられます。



〔富士市〕中原4号墳出土 農工具・鍛冶具・生産用具

^{なかほら}中原4号墳 富士山南麓の伝法沢川東岸に6世紀後半に築かれた径11mの円墳です。その小さな墳丘からは一見想像できないほどの質・量ともに豊かな品々が、未盗掘の状態で発見されました。農工具や鍛冶具、生産用具が多数副葬された状況から、この古墳の主は、土木開発や農業・林業、布・皮生産、鉄器生産に携わる渡来人を含む技術者集団を多数率いた、「富士山麓の開発王」であったと評価されています。このような指導者が、愛鷹山の古墳群の集団と共同でプロジェクトを実施していた可能性も十分に考えられます。



〔沼津市〕中原遺跡出土 ^{かなはし}鉄鉗



〔沼津市〕中原遺跡出土 ガラス小玉鑄型

^{なかほら}中原遺跡と手工業生産 山中の石川古墳群と浮島沼を挟んだ田子の浦砂丘上に築かれ、200軒を超える住居跡が発見された集落です。石川古墳群と同じ7世紀が集落の最盛期で、遺跡からは手工業関連遺物として砥石や紡錘車、鉄鉗などの鍛冶具のほか、古墳にも納められたであろう大量の鉄製品、そしてガラス小玉を作るための鑄型が出土しました。

また釣針や土錘などの漁具や大型の埴などもあり、全貌の解明は今後の調査によりますが、複合的な生産・加工の拠点集落と考えられます。



開発者たちの素顔 5 ～水産加工者として～

中原遺跡では、7世紀代より鉄製釣針や大型土錘などの漁具のほか、回遊性魚類の煮炊き用と考えられる土師器の埴が多数出土しています。

駿河・伊豆国では、奈良時代以降に平城京へ調として様々な堅魚（カツオ）製品を貢納していたことが木簡などから判明していますが、中原遺跡の調査により、その原初的な活動が7世紀までさかのぼる可能性が出てきました。

『日本書紀』に登場する稚贄屯倉は、現在の田子の浦港から沼川周辺に設置された、上宮王家（聖徳太子の一族）への堅魚製品の貢納拠点とみる説が有力であり、中原遺跡の特徴とも共通します。

駿河国駿河郡古家郷戸主春日部与麻呂調煮堅魚捌斤伍兩



平城宮跡出土木簡

〔沼津市〕日吉廃寺跡出土 創建瓦複製品



開拓者たちの子孫 ～古墳時代の終末と地域の再生～

約1,000基もの古墳が築かれた古墳群は8世紀になると作られる数は極端に減っていきます。かろうじて造られる古墳もそれ以前とは様相が異なり、例えば清水柳北1号墳は、これまでの古墳群の密集地帯ではなく現在の沼津市の工業団地内に築かれました。全国的にも珍しい上円下方墳という形であり、古墳からは火葬骨を納めた石櫃が検出されています。また大岡地区の宮下古墳からは仏具である銅鏡が、香貫地区の宮原1号墳からは取手付きの硯が出土しており、いずれも仏教と法によって社会を治める律令社会とかかわりを持つ遺物です。

富士市域でも愛鷹山麓において古墳は築かれなくなります。伝法には8世紀に古墳が築かれますが、ここでも副葬品は律令制における役人が使用する腰帯具などが出土しており、被葬者は律令制に組み込まれた人物であると考えられます。

そして律令時代ではこれまで砂丘上にあった集落は衰退をはじめ、代わって現在の沼津・富士の中心市街地周辺に巨大な集落や寺院が形成されていきます。まさに現在につながる市街地の原型が誕生したといえます。

エピソード

今回の展示では7世紀を中心とした愛鷹山麓に造られた古墳群とその出土遺物を通じて、地域の開拓と災害からの再生を導いた地域のリーダー達の素顔に迫りました。彼らは最先端の思想や技術を伴って開拓を進めましたが、それは一代にしてならず、その証は古墳に副葬品として納められました。そして彼らの子や孫たちは先人の考えを引き継ぎ、また改めながらも、その舞台を現在の中心市街地周辺へと移し、現在にもつながる沼津・富士の礎を築いていったのです。

さらに詳しく知りたい方は、こちらをどうぞ！

本展に関わる資料集や動画をインターネットでご覧いただけます。下のQRコードからアクセスしてください。（ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様のご負担となります。）

沼津会場



講演会資料集 (PDF)
沼津市教育委員会のホームページに移動します



講演会動画 (YouTube)
沼津市の公式チャンネルに移動します

富士会場



展示解説シート & 図像集 (PDF)
富士山かくや姫ミュージアムのホームページに移動します



展示解説動画 (YouTube)